

10月20日(金)

8:30~10:20 分岐部



コーディネーター  
石原 隆行  
関西労災病院

薬剤溶出性ステントなどのデバイスの進歩によって、PCIは冠動脈狭窄に対する標準的治療法としての地位を確立しました。しかし、全体の10-15%を占める冠動脈分岐部病変の治療成績は、依然として満足のいくものではありません。石灰化病変、CTO病変と並んで、分岐部病変はPCIに残された最後の“アキレス腱”です。分岐部病変の治療戦略や治療成績に関しての新しいエビデンスが日進月歩で発出されていますので、最新のエビデンスについてまずご講演頂きます。その後分岐部病変に対する具体的な治療方法(ステント留置法、OCTの使用法、側枝閉塞の予防法)についてピギナーにも理解ができるようにご講演頂きます。そして、発展編にはなりますが、最も治療の難易度の高い分岐部病変を含んだCTO病変での治療戦略をご講演頂きます。最後にまだエビデンスの十分でないDCBへの期待について述べさせていただきます。ピギナーの先生方から中堅の先生方まで幅広い先生方に興味を持っていただける内容になっています。ぜひ多くの先生方のご参加をお待ちしています。

座長  
石橋 堅 あかね会土谷総合病院  
山田慎一郎 北播磨総合医療センター

分岐部病変における最新のエビデンス  
管家 鉄平 華岡青洲記念病院

分岐部病変におけるステント留置法のすべて  
仲野 泰啓 九州大学病院

分岐部病変におけるOCTの活用法  
加治屋 崇 天陽会中央病院

分岐部病変における側枝閉塞予防のためのTip and Tricks  
船田 竜一 北関東循環器病院

分岐部を含むCTO病変への治療戦略  
横井 研介 佐賀大学医学部附属病院

分岐部病変におけるDCBへの期待  
石原 隆行 関西労災病院

10:30~12:20 石灰化病変を克服する



コーディネーター  
寺村 真範  
一宮西病院

デバイスや技術の進歩によりPCIの手法が標準化され安定した成績を残せるようになった現在においても、石灰化は短期および長期成績を悪化させる最大の要因であり、PCIにおける大きなアキレス腱の一つと言えます。また、様々な治療デバイスの選択肢もあり、石灰化病変に対するアプローチは術者間、施設間のバラツキが大きいのではないのでしょうか。特に経験の少ない若手オペレーターにとって石灰化はPCIを困難にさせる大きな壁となります。これまで使用されてきたRota、OASに加えてIVLが今年から本邦でも使用可能となり、治療デバイスの選択肢が広がりました。本セッションでは、石灰化の病理、イメージデバイスの活用法、各種バルキングデバイスの基本的な使用方法をエキスパートの先生からご講演頂きます。石灰化病変に対するストラテジーの整理、ブラッシュアップに繋がる有用なセッションになるものと考えております。是非ご参加頂ければ幸いです。

座長  
鹿島 由史 札幌心臓血管クリニック  
寺村 真範 一宮西病院

石灰化病変におけるIVUS/OCT活用法  
吉田 路加 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院

石灰化病変に対するRotaの基本的な使用方法  
坂倉 建一 自治医科大学附属さいたま医療センター

石灰化病変に対するOASの使いどころは？  
櫻井 将之 おおたかの森病院

石灰化病変に対するIVLの使いどころは？  
石川 正人 藤田医科大学病院

石灰化病変に対する最適なファイナライズデバイスは？  
~DES or DCB~  
松川 龍一 福岡赤十字病院

病理から見た石灰化病変の特徴  
中澤 学 近畿大学

Complex Cardiovascular Therapeutics 2023

CCT 2023

会期 2023年10月19日(木)~20日(金)

会場 神戸国際展示場 Room 4

Fellow Course



Web URL <https://cct.gr.jp/> Find us on <https://www.facebook.com/CCTJAPAN/>



# F CCT2023 Fellow Course

10月19日(木)

8:30~10:20 CTO



コーディネーター  
下地 顕一郎  
済生会宇都宮病院

座長

小堀 裕一 戸田中央総合病院  
松尾 浩志 八尾徳洲会総合病院

CTOにおける術前CCTAの有用性

長谷川勝之 東宝塚さとう病院

術前strategyの構築

石原 昭三 耳原総合病院

CTO GWの特性

景山 倫也 那須赤十字病院

Antegrade approachにおけるGWの操作

藤田 雅樹 江戸川病院

CTO (慢性完全閉塞)は我々インターベンション医が遭遇する病変の中でも最も難易度が高い病変です。従来、CTO-PCIは術者の経験と技量によって成功率が大きく左右される手技でした。しかし近年のデバイスの大きな進歩と成熟により、これらを「正しく」使用することができるかどうか手技の成功率に直結する時代になりました。このセッションでは、経験の浅い術者がCTOを治療するにあたって必要な知識と考え方を身につけることができる内容になっています。また、単に結果だけではなく、手技の安全性も重視する構成としました。CTOの複雑なストラテジーを術前データから構築し、手技中に修正しながら成功に導くまでの各ステップを順を追いながら解説します。初学者だけでなく、中堅の先生方やコメディカルの方々にも役に立つ内容になっていると思います。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

IVUS guided GW navigation

芦田 和博 聖隷横浜病院

Retrograde approachの適応

福原 怜 兵庫県立尼崎総合医療センター

Retrograde approach - Channel選択と通過 -

鈴木 孝英 JA北海道厚生連 旭川厚生病院

Reverse CARTの分類と方法

岡田 尚之 聖隷浜松病院

10:30~12:20 合併症



コーディネーター  
良永 真隆  
藤田医科大学

座長

明上 卓也 札幌禎心会病院  
良永 真隆 藤田医科大学

ガイドワイヤースタック・断裂時の対応

國井 浩行 大原総合病院

デバイススタック (Balloon, IVUSなど)

中川 裕也 函館市医師会病院

Rotablator・Diamondbackによる合併症、rotablator

burrのstuck/断裂時対処法

田辺 正喜 野崎徳洲会病院

ステント脱落/留置前のトラブル時の対応

良永 真隆 藤田医科大学

PCIに携わっている限り、誰も遭遇したくないけど、どうしても避けられないのが「合併症」です。全ての医療行為に「完全に安全」や「絶対」は存在しないと思いますが、合併症のリスクを正確に予測し予防する事、合併症が発生してしまった場合に速やかにベイルアウトする事で、その影響を最小限に抑えなくてはなりません。いざ自分が遭遇した時にどうしたらいいか「知らない」ことが、トラブルで最も怖いことです。このセッションを通して、経験豊富なPCIエキスパートの先生方の貴重な経験やベイルアウト法を共有することで、「ベイルアウト方法を知る」ためにPCIオペレーターの方々には非常に有用なセッションになると考えております。このセッションに参加していただいたことで、自分が「知っているベイルアウト方法」を多く習得し、トラブル対応能力をあげることで、患者様の命を救うことがあると思われま。皆様にとって、学び、共有のいい機会になると思いますので、是非とも当セッションに御参加いただけましたら幸いです。

冠動脈穿孔/断裂、wire perforation時の対応

樋上 裕起 岐阜ハートセンター

冠動脈解離/血腫の対応

福原 怜 兵庫県立尼崎総合医療センター

血栓、造影剤アレルギー(アナフィラキシーショック含む)、

HITなどの凝固関連合併症

滝澤 要 JCHO仙台病院

14:00~15:50 IVUS/OCT/OFDI



コーディネーター  
下岡 良典  
北農会 恵み野病院

座長

牧口 展子 北農会 恵み野病院  
御手洗敬信 聖マリアンナ医科大学

PCIに生かすIVUS所見の解釈

下岡 良典 北農会 恵み野病院

PCIに生かすOCT/OFDI所見の解釈

名越 良治 大阪府済生会中津病院

IVUSを活用したPCI

寺本 智彦 さくら総合病院

PCIの際にIVUS/OCT/OFDIを用いた病変部の評価は当たり前の手技となっています。それぞれの血管内イメージングデバイスには、それぞれの特徴があり、デバイスの特性を理解し、病変部の状態を正確に評価することは、質の高いPCIを行う上で重要な要素と考えます。本セッションでは、PCI初心者から中堅の先生、またコメディカルの皆様が、日常的に使用するIVUS/OCT/OFDIについて理解を深められるように企画を致しました。基本的な画像の解釈と実際にPCIで使用する際のそれぞれのイメージングデバイスの特性、さらに新しい試みとして将来臨床試験を企画した際に、どの様にIVUS/OCT/OFDI画像所見を生かせるかという視点も合わせた内容と致しました。画像診断に造詣の深いエキスパートの先生からご講演を頂き、血管内イメージングを十分に活用した質の高いPCIを目指しましょう。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

OCT/OFDIを活用したPCI

小出 正洋 京都岡本記念病院

IVUSの臨床研究への活用方法

廣畑 敦 心臓病センター榊原病院

OCT/OFDIの臨床研究への活用方法

大竹 寛雅 神戸大学医学部附属病院

16:00~17:50 Physiology



コーディネーター  
海老澤聡一郎  
信州大学

座長

海老澤聡一郎 信州大学  
蔵満 昭一 札幌心臓血管クリニック

FFRとNHPRの基礎

蔵満 昭一 札幌心臓血管クリニック

Physiologyを用いたPCI optimization

前川裕一郎 浜松医科大学

MINOCA、INOCAの基礎

加納 誠士 三重ハートセンター

PCIの果たす大きな役割に「胸痛」を治すことがあります。Physiologyはこれに基づくアセスメントでPCIの効果を最大化するとともに、INOCAなどのPCIでは解決できない病態評価にも有用です。また、Refractory anginaの概念も定着しつつあり欧米では冠静脈洞へのインターベンションの効果が実証されるなど、患者さんの「胸痛」を治すために我々インターベンションリストがやらなければならないことはPCIからPCI+αに変わりつつあります。本セッションではこの分野におけるトップランナーの先生方に、初学者にもわかりやすく、そして中堅以上の先生にも最新の知見をお届け出来るよう企画いたしました。是非たくさんの先生にご参加いただき、Physiologyを理解し我々の周りにいる多くの「胸痛」患者さんの正しい治療戦略を学びましょう。

FFR CTの基礎

山下 淳 東京医科大学病院

Angio-derived FFRの現在と未来

塩野 泰紹 和歌山県立医科大学